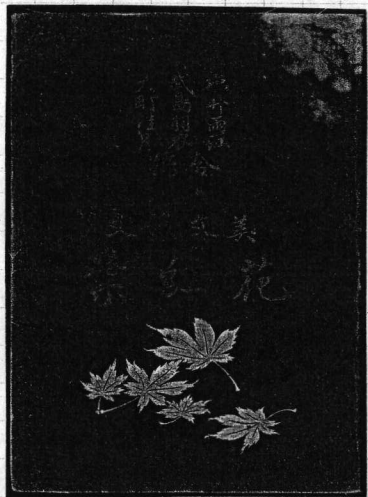


大町桂月 （おきげつき） 詩人、評論家。明治二年一月、二十四日土佐國生れ、大正十四年六月十日歿（二六九一九五）。本名其衛。筆名、二十、永生、吸口釣徒、大町其衛、春風居士、春風醉士、桂月樵史、桂月漁郎、桂月生、桂濱月下漁郎、桂濱漁郎、秋劍、秋劍居士、秋劍生、鏡川漁郎、阪田金千郎等。明治二十九年帝國大學文科大學國文學科卒。在學中雜誌『帝國文學』編輯委員。二十二年博文館入社、四十三年富山房の雜誌『學生』主筆。化學者大町芳文、昆蟲學者大町文衛の父。

著書『美文花紅葉』（瀧井雨江、武島初衣合著、明治二十九年十一月二十七日博文館）、新體詩集『この花』（内題「この花は」合著・新詩會編、明治二十年二月十一日博文館）、『夏沖阿蘭梨』（明治二十年四月六日大日本圖書株式會社）

『國文學大綱』、『書葉集』（合著）、石橋哲次郎編、明治二十年十一月二十三日文盛堂、『詩及散文』（明治二十一年四月十九日普及舎「新撰白種」）、『無聲觸鳴』（合著・岩崎英重編、明治二十一年五月二十八日鍾重齋）、『美文黃菊白菊』（明治二十一年十一月一日博文館）、『新中學國文教程・卷之九』（本名、上田敏共編、明治二十二年四月四日大日本圖書株式會社）、『ハンニバル』（明治二十二年六月二十一日博文館「世界歴史譚」）、『美文巖下滴泉』（合著・石橋夢太郎編、明治二十二年九月十八日大學生館「名家文庫」）、『文學小觀』（明治二十二年二月十五日新聲社）、『一蓑一笠』（明治二十四年二月二十一日博文館）、東川楊舟論述『伊藤侯八面觀』（評述、明治二十五年五月八日廣文堂書



著書『美文花紅葉』（瀧井雨江、武島初衣合著、明治二十九年十一月二十七日博文館）、新體詩集『この花』（内題「この花は」合著・新詩會編、明治二十年二月十一日博文館）、『夏沖阿蘭梨』（明治二十年四月六日大日本圖書株式會社）

活)、 『明治國氏龜鑑』 (本名、内務大臣官房編、明治二十五年七月

二十五日國光社)、 『續學生訓』 (明治二十五年七月二十一日博文

館)、 『處世訓』 (明治二十六年五月二十四日博文館)、 『春草秋草』

(明治二十六年七月五日新聲社)、 『筆のしづく』 (明治二十六年七

月十日文祿堂書屋)、 『社會訓』 (明治二十六年十月九日文祿堂書

屋)、 『大日本文明史』 (本名、明治二十六年十一月二十日博文館

『帝國百科全書』)、 『重國訓』 (明治二十七年六月二十日博文館)、

『俳諧講演集』 (合著、筑波會編、明治二十八年二月八日金港堂書籍

株式會社)、 『我が寸章』 (明治二十八年十一月二十六日高有倫

堂)、 『伊藤大巖編』 『文士寶典』 (伊藤銀月共刪修、明治二十九年十月

二十日高有倫堂)、 『<sup>新</sup>體作文百科辭林』 (明治四十年二月二十日廣文

堂書店)、 『日本文章史』 (本名、明治四十年五月九日博文館『帝國

百科全書』)、 『青年之煩悶』 (明治四十年五月十九日參文舎・附積

文社『青年修養叢書』)、 『<sup>桂月</sup>文集雜木林』 (明治四十年六月十五日博

文館)、 『代表日本人』 (明治四十年九月十日高有倫堂)、 『半生

の文章』 (明治四十一年一月十日廣文堂書店)、 『名媛集』 (合著、

井上藤吉編、明治四十一年二月七日<sup>文祿堂書店</sup>、 『筆』 (明治四十

一年四月十日廣文堂書店)、 『<sup>第</sup>三筆のしづく』 (明治四十一年九月十

日<sup>文祿堂書店</sup>、 『むら雲』 (<sup>笹川鶴風</sup>、<sup>白河鯉洋</sup>共編、明治四十一年二月五日

高有倫堂)、 『<sup>樋口龍峽</sup>、<sup>樋口龍峽</sup>』 (樋口龍峽共編、明治四十一年七月十日

高有倫堂)、 『<sup>筆</sup>』 (明治四十一年九月五日金尾文淵堂)、 『<sup>筆</sup>』

倉武士』 (明治四十一年十月十五日弘鏡館書店)、 『<sup>桂月書翰</sup>』 (明

治四十一年十一月十七日龍江堂)、 『四十七』 (明治四十一年二月

二十日弘學館書店）、コチビ筆（明治四十三年七月五日至誠堂書店）

店）、謝枋得選コ新譯文章軌範（譯評、明治四十三年十月九日春秋文榮

社書店）、コ社會訓（明治四十四年二月十八日公文書院）、コ古今

史談（明治四十四年二月二十八日公文書院）、コ増筆のしづく（明

治四十四年四月十一日公文書院。再刊コ改筆のしづく（内題コ増筆の

しづく）大正八年七月二十日明文館、十一年四月五日郁文舎出版部）、

コ織田信長（合著・小川多一郎・村田九隼編、明治四十四年五月十日隆文堂書

店「偉人研究」）、貞原益軒著コ新益軒十訓（全三冊）（校訂、上・明

治四十四年六月十一日、中・九月一日、下・十一月二十日全誠堂書店

「學生文庫」）、コ文惠二百題（明治四十四年七月十日全誠堂書

店）、コ新謠曲全集（全三冊）（丸岡桂共校訂、上・明治四十四年七月

二十八日、中・十一月二十八日、下・大正元年八月十八日全誠堂書店

「學生文庫」）、柴田鳩翁著コ心學道話（校訂、明治四十四年九月

五日至誠堂書店「學生文庫」）、コ新源公盛衰記・壹（校訂、明治

四十四年九月十五日至誠堂書店「學生文庫」）、原公道著コ新先哲叢

談（譯、明治四十四年九月十八日至誠堂書店「學生文庫」）、コ新

義經評記（校訂、明治四十四年十月六日至誠堂書店「學生文庫」）、

コ新訂狂言記（校訂、明治四十四年十一月二十一日全誠堂書店「學生

文庫」）、頼山陽著コ新訂日本外史（校訂、明治四十五年二月二十八

日全誠堂書店）、コ新訂四書（校訂、明治四十五年四月十五日至誠堂

書店「學生文庫」）、コ箱根山（大正元年八月二十八日至誠堂書

店）、コ古今の婦人（合著・福島四郎編、大正元年九月十六日婦女

新聞社）、馬場峰月編コ作法文範文章大觀（評解、大正元年十一月十日

帝國實業學會)、「近世名文解剖」(日本文章學院編、大正二年六月)

日新潮社「作文叢書」(「東洋人言行録」(川田正樹共編、大正一

年八月)二十四日博文館)、馮夢龍筆編「新譯智囊」(校、大正二年九

月)二十八日精誠社)、鹽井雨江遺稿「雨江全集」(武島初衣共編、大

正二年十一月七日博文館)、可孝子と貞女(家庭教訓)「(合著、鹿

島生、大正三年一月)一日水光閣書店)、可書翰「一ヶ月」(大正二年

十月十三日弘學館書店)、可作法書翰文「(武島初衣

十一月四日博文館「新式作文大成」)、可日本男兒論「(大正二年十

一月)二十八日富山房)、可我半生の筆「(大正四年一月五日廣文堂書

店)、可男の中の男「(大正四年四月八日東亞堂書房「縮刷名著叢

書」)、可作法儀式文「(武島初衣

「新式作文大成」)、スコット作「タイヴァンホー」(編、大正四年

八月八日植竹書院「世界名著選」)、可讀書

年九月十七日有精堂書店)、可人間と自然「(大正四年十一月)二十

日東亞堂書房「縮刷名著叢書」)、可作法

大正五年一月)二十日博文館「新式作文大成」)、文集「彩雲」(合著

「好文會同人、大正五年一月)二十日精華堂書店)、可傑人佳人「(大

正五年二月)二十三日春陽堂)、可作文五十講「(大正五年五月十五日

中外社出版部)、可八犬傳物語「(名義、大正五年九月五日新潮社。

加藤武雄執筆)、可冷汗記「(大正五年九月十日富山房)、可美文讀

花紅葉「(武島初衣

(編、大正六年五月)二十一日水野書店)、可最新文章辭典「(編、大

正六年八月)二十日止筆堂書店)、可此處、道あり「(大正六年十一月

五日星文館)、<sup>明治</sup>大正名家文(選評、大正七年一月八日博文館)、

源平物語(大正七年二月二十五日新潮社)、<sup>美點</sup>長所短所日本研究(

(編、大正七年五月二十日日本書院)、<sup>大</sup>人間記物語(大正七年七

月十八日新潮社)、<sup>文豪</sup>傑作雲の波(編、大正七年九月

十四日松本商會出版部)、<sup>京聲</sup>京聲録(大正七年十一月八日春陽堂)、

佐々政一著<sup>醒雪</sup>遺稿(編、大正七年十一月十五日明治書院)、<sup>略</sup>訂

桂月書翰(大正八年六月十五日<sup>聚</sup>大川屋書店)、<sup>水滸</sup>傳物語

(大正八年七月二十八日新潮社)、<sup>滿鮮</sup>遊記(大正八年十月二十

五日大阪屋流書店)、<sup>新習</sup>習字書翰文(玉木愛子書、大正九年五月

一日大阪・古川文明堂)、<sup>桂月</sup>獨歩傑作文集(菊池鹿汀編、大正十年

十月十五日綱島書店「美文評解叢書」)、<sup>讀方</sup>釋義中庸新譯(大正十

年十一月十日大阪・田中求樂堂「國漢文叢書」)、<sup>新書</sup>翰大鑑(共

編、大正十一年二月二十五日郁文舎出版部)、<sup>明治</sup>杉浦重剛選<sup>聖德</sup>

餘韻(補、大正十四年二月二十五日世京文庫「世京文庫」)、

少年の頃・上巻(合著・小野誠悟編、大正十四年四月二十日第一

出版協會「少年少女文藝叢書」)、<sup>桂月</sup>隨筆近世の我輩(神代種亮校

大正十四年十月十一日興文社)、<sup>大</sup>桂月百話(大町芳文編、大正十

五年四月二十日帝國教育研究會)、<sup>人</sup>人の運(大正十五年九月十一

日<sup>誠堂</sup>誠堂書店)、<sup>傳</sup>傳日本の人傑(大町芳文編、昭和二年五月十日

桂月堂)、<sup>日本</sup>日本國民性の解剖(七版・昭和四年二月二十八日日本

書院)、<sup>冬籠</sup>帖(未名、昭和四年七月五日大町文館刊)、<sup>蒼</sup>蒼

泉帖(同、昭和四年七月五日大町文館刊)、<sup>桂月</sup>桂月紀行文集(昭

和八年九月二十日春陽堂「春陽堂文庫」)、<sup>繪</sup>入註釋徒然草(譯)

校註、昭和九年五月十日(河内書店)、遺稿(千代田湖) (生出) (匡縮、  
昭和十一年八月一日、再刊。)、二十四年八月一日、二十五年九月一日(龍  
聖閣)等。

文獻、田中桃葉著 評釋桂月文粹 (評釋桂月文粹) (評釋名家文粹) (再版・大正十二  
年十一月十五日大阪・巖谷堂出版部)等。